

# 認知症地域支援体制構築モデル事業を実施して見えたもの

## 袖ヶ浦市高齢者支援課

### I はじめに

袖ヶ浦市では、平成21年10月から平成23年3月まで、千葉県の委託を受けて「認知症地域支援体制構築モデル事業」に取り組んだ。認知症やその家族等を地域で支える為に、さまざまな関係機関、関係職種との連携を図りながら当事業を推進してきた。今回、本事業の取り組みを報告する。

### II 袖ヶ浦市の概況

袖ヶ浦市は東京湾沿い、千葉県のほぼ中央に位置し、羽を広げた蝶のような形をしている。東部は市原市、西部は木更津市に接し、北部は鋸の歯のような形状で東京湾に臨んでいる。

工業が盛んであり、市の北西部の海岸はかつて海苔養殖が盛んであったが、昭和40年代から京葉工業地帯が形成された。

また、臨海工業地帯の造成を契機として、土地区画整理事業により宅地が形成された。一方、内陸部の緑豊かな農業地帯では、稲作をはじめ、レタスやトマトの施設園芸や里芋、大根、落花生などの生鮮野菜が栽培され、都市近郊の台所を支える食料基地としての役割を果たしている。また酪農も盛んである。

本市の面積は94.92km<sup>2</sup>であり、平成3年4月1日、全国で656番目、県下で29番目に市制を施行した。本市の将来に大きな影響をもたらす東京湾アクアラインの千葉県側拠点として、また羽田空港—袖ヶ浦バスターミナル間27分の地理を活かし、将来都市像「“自立と協働のまち”人いきいき、緑さわやか、活力あふれる袖ヶ浦」の実現に向け、まちづくりを進めている。

平成23年1月1日現在、医療提供体制は、病院が1施設(ベッド数:319床)・一般診療所40施設(うち開業医25施設(ベッド数:89床(6施設)))、歯科診療所25施設、薬局22箇所となっている。

また、介護保険入所施設として、特別養護老人ホーム3施設(155床)、老人保健施設2施設(173床)、認知症対応型共同生活介護2施設(27床)がある。

地域包括支援センターは、直営で1箇所設置すると共に、ランチを3箇所社会福祉法人へ委託している。

なお、モデル地域は市内全地区を対象とした。

### Ⅲ 人口・世帯数・高齢者人口・高齢化率

	年度	地 区					住所地 特 例	市合計
		昭和	根形	長浦	平岡	中富		
人 口 (人)	21 年度	15,262	6,074	26,503	6,814	6,104	—	60,757
	22 年度	15,402	6,062	26,562	6,755	6,076	—	60,857
世帯数 (世帯)	21 年度	5,941	2,195	10,797	2,480	2,050	—	23,463
	22 年度	6,029	2,216	10,933	2,501	2,075	—	23,754
65 歳以上 人 口 (人)	21 年度	2,743	1,214	4,350	1,906	1,546	—	11,759
	22 年度	2,833	1,254	4,507	1,930	1,544	—	12,068
高齢化率 (%)	21 年度	18	20	16	28	25	—	19
	22 年度	18	21	17	29	25	—	20

※ 21 年度人口・世帯数・65 歳以上人口は平成 21 年 10 月 1 日現在

※ 22 年度人口・世帯数・65 歳以上人口は平成 22 年 9 月 1 日現在

### Ⅳ 要支援、要介護認定者数

(人)

	年度	地 区					住所地 特 例	市合計	
		昭和	根形	長浦	平岡	中富			
認 護 認 定 者 数	21 年度	343	148	577	284	215	34	1,601	
	22 年度	355	165	583	309	224	37	1,673	
知 症 高 齢 者 数	①主治医意見書 のみでⅡ以上	21 年度	51	20	48	25	25	2	171
	22 年度	54	20	58	26	22	2	182	
者 数	②認定調査票の みでⅡ以上	21 年度	37	14	47	38	22	3	161
	22 年度	27	12	56	40	21	3	159	
※	③意見書・調査 票共Ⅱ以上	21 年度	155	73	304	146	91	21	790
	22 年度	187	88	314	169	103	27	888	
※	合計	21 年度	243	107	399	209	138	26	1,122

2	(①～③)	22年度	268	120	428	235	146	32	1,229
	要支援・要介護認定	21年度	15.2	6.7	24.9	13.1	8.6	1.6	70.1
	者数に占める率(%)	22年度	16.0	7.2	25.6	14.0	8.7	1.9	73.5

## V 袖ヶ浦市のモデル事業の構成

- 1 モデル事業を推進するための事業
- 2 認知症のご本人・ご家族を直接支援するための事業
- 3 居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、地域包括支援センター職員の資質向上のための事業
- 4 地域での見守りを構築するための事業
- 5 医療連携
- 6 市民に認知症に関する知識の普及を図るための事業

## VI 事業内容

### 1 モデル事業を推進するための事業

- (1)プロジェクトチームの編成
- (2)袖ヶ浦市認知症地域支援体制構築モデル事業検討委員会
- (3)コーディネーターの配置

### 2 認知症のご本人・ご家族を直接支援するための事業

- (1)認知症の相談
- (2)認知症の家族のつどい

### 3 居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、地域包括支援センター職員の資質向上のための事業

- (1)認知症の人のためのケアマネジメント センター方式の研修
- (2)認知症の人により良いケアをするための研修会
  - ・センター方式のフォローアップ研修(第1弾)
  - ・センター方式のフォローアップ研修(第2弾)
- (3)居宅介護支援事業者連絡会
- (4)認知症に関するセミナー等への参加
  - ・都道府県・モデル地域合同セミナー
  - ・地域包括支援センター職員を対象とした住民連携と認知症介護予防サービス企画支援

## 研修会

- ・千葉認知症研究会
- ・南総認知症研究会 市民フォーラム
- ・認知症メモリーウォーク

## 4 地域での見守りを構築するための事業

- (1) キャラバンメイトの養成講座の開催及び活動支援
- (2) 認知症サポーターの養成講座
  - ・成人(自治会・シニアクラブ・サークル等)
  - ・小学生(教育委員会・学校との連携)
- (3) 「認知症サポーターの家」のステッカーの作成・配布
- (4) 地域資源マップの作成・配付
- (5) 地域での見守り(見守り隊)

## 5 医療連携

- (1) かかりつけ医(君津木更津医師会二部会)との打ち合わせ会議
- (2) 君津木更津歯科医師会袖ヶ浦支部会・君津木更津薬剤師会袖ヶ浦市部会との打ち合わせ会議
- (3) 症例検討会

## 6 市民に認知症に関する知識の普及等を図るための事業

- (1) 認知症サポーターの養成講座
- (2) 南総認知症研究会袖ヶ浦認知症市民フォーラム
- (3) 認知症予防に関する講演会

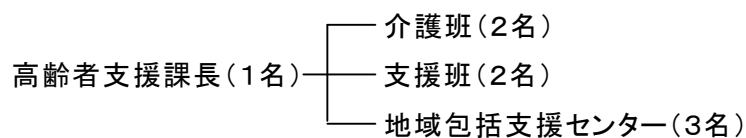
## Ⅶ 実施報告

### 1 モデル事業を推進するための事業

- (1) プロジェクトチームの編成(8名)……………平成21(新規)・22年度(継続)

#### (目的)

高齢者支援課(課長・支援班(2名)・介護班(2名)・地域包括支援センター(3名))職員によるプロジェクトチームを編成し、本市におけるモデル事業の検討をすると共に推進を行う。



(2) 袖ヶ浦市認知症地域支援体制構築モデル事業検討委員会(15名)

.....平成21(新規)・22年度(継続)

(目的)

保健・医療・福祉・介護等の分野における関係機関・団体および行政等により、地域における認知症対策について取り組み等を検討するとともに、モデル事業を支援する。

(メンバー(15名))

- ・君津木更津医師会(二部会)
- ・君津木更津薬剤師会
- ・特別養護老人ホームサニーヒル
- ・グループホームならわの家
- ・袖ヶ浦市民生委員児童委員協議会
- ・袖ヶ浦市介護保険運営協議会
- ・袖ヶ浦さつき台病院老人性認知症疾患センター
- ・千葉県健康福祉部高齢者福祉課
- ・君津木更津歯科医師会(袖ヶ浦支部)
- ・特別養護老人ホーム袖ヶ浦菜の花苑
- ・袖ヶ浦瑞穂特別養護老人ホーム
- ・グループホーム憩
- ・袖ヶ浦市シニアクラブ連合会
- ・袖ヶ浦市社会福祉協議会
- ・袖ヶ浦市福祉部

(委員会の開催状況)

	年月日	主  な  議  題	参  加 委員数
1 回目	22年 3月25日	・千葉県認知症地域支援体制構築モデル事業について ・平成21年度袖ヶ浦市認知症地域支援体制構築モデル事業の実施状況について ・平成22年度袖ヶ浦市認知症地域支援体制構築モデル事業の計画について ・「認知症の現状と課題」について ①医療の立場から ②介護の現場から	13名
2 回目	10月29日	(1)千葉県認知症対策推進協議会「医療連携のあり方」・「医療と介護・福祉の連携のあり方」合同作業部会中間報告について (2)平成21年度袖ヶ浦市認知症地域支援体制構築モデル事業の実施結果、並びに平成22年度袖ヶ浦市認知症地域支援体制構築モデル事業の進捗状況について (3)「認知症になっても、いつまでも自分らしく住み慣れた	11名

		<p>地域で暮らすための支援体制」について</p> <p>①医療・介護・福祉と地域が連携した認知症高齢者の支援体制について</p> <p>②かかりつけ医と専門医療機関が連携した早期から終末期までの支援体制について</p> <p>③医療・介護・福祉の現場から発信できることや発信したいことについて</p> <p>(4)地域資源マップ(案)について</p> <p>(5)「認知症サポーターの家」のステッカー(案)について</p>	
3回目	23年 3月25日 (予定)	<p>(1)千葉県認知症対策推進協議会報告について</p> <p>(2)平成21年度並びに平成22年度袖ヶ浦市認知症地域支援体制構築モデル事業の実施結果について</p> <p>(3)地域資源マップについて</p> <p>(4)「認知症サポーターの家」のステッカーについて</p> <p>(5)「認知症になっても、いつまでも自分らしく住み慣れた地域で暮らすための支援体制」について</p> <p>①認知症治療及び地域支援体制について</p> <p>②医療・介護・福祉の現場での取り組みについて</p>	

(3)コーディネーターの配置(1名)……………平成21(新規)・22年度(継続)

(目的)

当市や関係者に認知症に関する専門的助言を行うとともに、ネットワークの構築の推進、及びネットワークが機能していくための調整のほか、地域資源マップを作成するなど、モデル事業全体への支援を行う。

(コーディネーター)

・袖ヶ浦さつき台病院 老人性認知症疾患センター長 細井 尚人 医師

(※ 千葉県より平成23年2月15日付けにて認知症疾患医療センターの指定あり)

2 認知症のご本人・ご家族を直接支援するための事業

(1)認知症の相談

(目的)

認知症の初期症状について気軽に相談できる窓口を開設し、認知症の医療・介護についての知識・情報の提供を行うと共に、疾病の早期発見と早期治療につなげることで認知症高

齢者やその家族等を支援する。

※ 平成22年度より実施予定であったが、包括的支援事業の総合相談として実施

(2) 認知症家族のつどい……………平成22年度(新規)

(目的)

認知症の人とその家族のおかれている状況や思いを知り、必要とされる支援のあり方を探ると共に、介護にあたる家族への支援のひとつとして、孤立しがちな介護者同士の交流の場を提供することにより、認知症の家族を介護する人たちが介護にまつわる経験や思いを分かち合ったりアドバイスをし合うことで介護者の支え合いとつながりを促進し、介護者の負担感の軽減につなげる。



回数	月 日	内 容	参加者数
1	6月24日	座談会「今困っていること等」	8名
2	9月24日	座談会「ストレス発散の方法」・体操等	8名
3	12月25日	座談会・体操	7名
4	23年3月5日	医師の講話・座談会	6名

※ 袖ヶ浦さつき台病院 細井 尚人医師(コーディネーター)及びゆずの里石井弓子科長が毎回出席

※ 参加者の声(アンケートより一部抜粋)

**第1回**

- ・アドバイスをいただけて良かった。
- ・初めてであったのでコミュニケーションが足りないので、今後は親睦があったら良い。
- ・介護の中でも、食事の内容(量・メニュー)について知りたい。

**第2回**

- ・皆様のお話を聞くことができ、大変参考になった。
- ・介護についての悩みや理解が深まる。
- ・同じ悩みを聞いてもらって、皆同じなんだなーと安心する。

- ・家族が認知症を発症したばかりの人達にはありがたい。もっとそういう人に参加をしてもらった方がいいと思う。

### 第3回

#### (今後のつどいの内容について)

- ・同じ悩みを持つ仲間とおしゃべりしたい。
- ・認知症に関する専門家の話を聞きたい。
- ・これからもリフレッシュできるような体操やレクリエーションをやりたい。
- ・認知症の症状の進行に対応する介護者の心の準備のモデル的なものを知りたい。

### 第4回

- ・つどいに参加して、心の開放が得られた。
- ・認知症の薬の話など普段聞けない話が聞けてよかった。
- ・何も知らない人間にとっては、このような機会は大変ありがたかった。参加したことにより受診に結びついた。

## 3 居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、地域包括支援センター職員等の資質向上のための事業

### (1) 認知症の人のためのケアマネジメント・センター方式の研修……………平成21年度(新規)

#### (目的)

「利用者本位のケア」を大切に、「本人と家族のよりよい暮らし」を一緒に目指していくために、市内の居宅介護支援事業所・介護サービス事業所の職員を対象とし、「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」の研修会を全3回で行い、アセスメントからケアマネジメント全般及び日常のケアの技術の向上を図る。全3回修了した参加者に修了証交付。

事前に事業所へ認知症ケアについて、又、各回終了後には、学びや気づきについてのアンケートを実施。

回数	月日	内容	参加者数
1	10月26日	アセスメントとケアプラン研修会「地域で暮らすことの再構築」～利用者個々の地域生活の支援とは～	事業所：31名
			市：11名
2	11月25日	アセスメントとケアプラン研修会	事業所：30名
			市：7名



3	12月17日	アセスメントとケアプラン研修会	事業所：24名
			市：6名

講師：特別養護老人ホーム「じょうもんの郷」施設長 助川 未枝保氏

### ※ 参加者の声(受講後の感想より一部抜粋)

#### 第1回

- ・認知症があっても、その人らしく生活できるように情報を共有し支えていくことが重要であると感じた。(特別養護老人ホーム)
- ・行動障害の対応策はと思って受けたが、関わり方、本人の気持ちになってサポートさせていただくという気持ちで取り組めたらと思う。(居宅介護支援事業所)
- ・今までどう対応したら良いか困っていたが、接し方など工夫して業務にあたってみようと思った。(短期入所生活介護)

#### 第2回

- ・一つの言葉から原因・背景へ広がり本人を認める大切さを学んだ。(居宅介護支援事業所)
- ・できれば施設の中からも研修に来てくれればと思った。(居宅介護支援事業所)
- ・改めてアセスメントの重要性を学ぶ事ができた。(居宅介護支援事業所)
- ・現場に持ち帰り、より良いケアにつなげていきたい。(短期入所生活介護)
- ・Eシートを使ってこれからのケアを見直したい。(認知症対応型共同生活介護)
- ・様々な事例を聞き参考になった。アセスメントしたことをまとめる力をつけたい。(訪問看護)

#### 第3回

- ・原因、背景をもう少し掘り下げるようにする。行動からの本人の思い、何でこのような行動をとるか分析するなど、時間をかけてアセスメントすることが大事であることを学んだ。(居宅介護支援事業所)
- ・いろいろな情報に耳を傾け、行動への理由、思いなどを理解できるように努力したいと思った。(訪問介護)
- ・視点を変えて原因、背景を考えると今までと違ったケアができることを学んだ。相手に原因を押し付けてはいけないと学んだことを今後の業務にいかしていきたい。(通所介護)
- ・プラスの面を増やしていくケアプランを作成することによって、利用者へのより良いケアが提供できるようになるということがわかった。(短期入所生活介護)

## (2) 認知症の人に、より良いケアをするための研修会

①センター方式のフォローアップ研修 (第1弾)……………平成21年度(新規)

(目的)

市内の居宅介護支援事業所・介護サービス提供事業所の職員を対象に、認知症ケースの支援についてさらに学びを深めるために、「認知症の人のためのケアマネジメント センター方式」に引き続き、特に「医療との連携」について研修会を行い、認知症ケアにおける医療・介護・福祉の連携について学習し地域での実践に活かす。

回数	月 日	内 容	参加者数
1	2月26日	① 認知症における医療の現状と課題 (講師:袖ヶ浦さつき台病院 細井尚人医師)	事業所:35名
		②認知症の人・家族がかかえている医療的な問題 (講師:「じょうもんの郷」施設長 助川未枝保氏)	市: 7名
2	3月24日	認知症における現状と課題	事業所:21名
			市: 6名

※ 講師:特別養護老人ホーム「じょうもんの郷」施設長 助川 未枝保氏

**※ 参加者の声(感想より一部抜粋)**

**第1回**

- ・すぐに答えを出すのではなく、2,3日かけて答えを出す。あせらないことが大切だとわかった。(訪問介護)
- ・介護、医療双方の距離をいかに縮められるか、家族、本人を取り巻く関係者も含めて考えるよい機会となった。(短期入所生活介護)
- ・本人と家族を全体的にとらえる視点を学んだ。(居宅介護支援事業所)

**第2回**

- ・今の問題点のみを取り上げるのではなく、原因となっていることが何かという視点が重要である。(居宅介護支援事業所)
- ・課題の背景や原因等を整理することにより、問題の糸口を見つけることができる。関わる人のより多くの見方や意見が本人への良いアプローチとなる。(訪問介護)
- ・直接的なケアの検討の前に利用者に関わる方全てからあらゆる情報の収集をし、その共有からよりよいケアの検討や職員の意識が高まった。(通所介護)

**②センター方式のフォローアップ研修 (第2弾)……………平成22年度(新規)**

**(目的)**

「利用者本位のケア」を大切にし、「本人と家族のよりよい暮らし」を一緒に目指していくために、市内の居宅介護支援事業所・介護サービス事業所の職員



を対象とし、「認知症の人のためのケアマネジメント センター方式」のフォローアップ研修(第Ⅱ弾)として、アセスメントからケアマネージメント全般及び日常のケアの技術の向上を図る。

事前に事業所へ認知症ケアについて、又、各回終了後には、学びや気づきについてのアンケートを実施。

回数	月日	内容	参加者数
1	7月13日	認知症の心理行動(BPSDを学ぶ)	事業所:26名
			市:6名
2	8月10日	認知症の方の個別ケアを考える ～センター方式のまとめシートを用いたカンファレンスの実施～	事業所:26名
			市:7名
3	9月14日	モニタリングの視点を学ぶ・利用者の変化を確認する ～前回、学習内容の実践～	事業所:24名
			市:7名
4	10月6日	思考展開シートを使ったアセスメント	事業所:18名
			市:6名

講師:特別養護老人ホーム「じょうもの郷」施設長 助川 未枝保氏

#### ※ 参加者の声(感想より一部抜粋)

##### 第1回

- ・BPSDはどうして、と探ることで本人に合わせたサポートができる。現在のアセスメントだけでは足りないと思った。(居宅介護支援事業所)
- ・BPSDを困った症状ととらえることが多く、対応に追われ、なぜ起きているのかをアセスメントすることがなかったので大変勉強になった。(訪問看護)
- ・センター方式を用い、利用者の生き方を理解して、その人らしく生活していけるよう支援していきたいと思った。(認知症対応型共同生活介護)

##### 第2回

- ・利用者の発言を広げいくつかのケアに結びつくことを知り、利用者の言葉の意味や心の奥の声に気づくことで良いケアに結び付けられることを知った。(居宅介護支援事業所)
- ・アセスメントの重要性を実感した。利用者の一言から、その方にあったケアにつながり、その方のことをもっと理解できるということを知った。(通所介護)
- ・利用者本位の介護計画のプロセスについて学んだ。利用者の一つの言葉から、いろいろなことが引き出せ、原因や背景を考えることで、その人にあった対応の仕方がわかった。(特別養護老人ホーム)

### 第3回

- ・本人の思い、原因と背景を掘り下げていくことでより多くのことがみえる。(居宅介護支援事業所)
- ・「相手に押し付けない」「本人の思いを受け入れてからアドバイス」の言葉が印象的だった。プラスの面から計画を立てる方法に取り組んでいきたい。(訪問介護)
- ・ICFの考え方として、マイナス面とプラス面を分けて考えるといろいろな面が見えてくる。プラス面を生かして伸ばしていくことが必要である。(特別養護老人ホーム)
- ・利用者の日常の行動、何気ないつぶやきから、思いを汲み取り、混乱を最小限に安心して過ごせるように支援したい。(短期入所生活介護)

### 第4回

- ・言葉の背景の分析の大切さ、気づきなどを改めて振り返ることができた。(居宅介護支援事業所)
- ・利用者の「人として役に立ちたい、できることを行っていきたい」等その人の思いを受け止められるように、少しでも笑顔が見られるようなケアをしていけるよう皆で検討していきたい。(訪問介護)
- ・センター方式で情報を集め分析し、思考展開シートで再確認することができた。一人の人に対して深く考えることになり、より良いケアが提供できると思う。(特別養護老人ホーム)
- ・利用者の言葉を表面的な部分でしか理解しようと思っていなかったが、研修を受けて、利用者の言葉の背景を考えるという、大切な部分を学ぶことができた。今後利用者の言葉に対して、疑問を持つことで、より良いケアにつながるようにしていきたい。(ランチ)

## (3) 居宅介護支援事業者連絡会……………平成21(継続)・22年度(継続)

### (目的)

介護保険制度施行に伴い、要介護者等に対し総合的かつ効率的に介護サービスが提供されることを目的として、平成12年より居宅介護支援事業者と連携を図るため実施。

### 平成21年度

従来、対象者は居宅介護支援事業(本市、近隣市で当市のケアプランを10件以上担当している事業所・受講希望の事業所)のケアマネのみとしていたが、第3回より市内の介護サービス事業所にも拡大すると共に研修内容を認知症に集中して実施。

回数	月 日	内 容	参加者数
1	5月19日	事業説明(平成21年度の高齢者福祉サービスや要介護認定申請等の事業について)	44名
2	7月24日	日頃の業務で認知症又は疑いのある利用者との関わりについて～意見交換(グループワーク)～	28名
3	23年 3月18日	講話「認知症の方との関わり方について」 (講師:袖ヶ浦さつき台病院 石井 弓子氏)	45名
4	11月17日	講話「認知症または疑いのある方への関わり方について」 (講師:グループホームならわの家 加曾利 正宏氏)	33名
5	22年 2月12日	講演会「認知症と共に生きる」 (講師:袖ヶ浦さつき台病院 細井 尚人医師)	107名

※ 3については、講師の都合により3月に実施した

- 対象者**
- 第1・2回 近隣市を含む居宅介護支援事業者のみ
  - 第3・4回 近隣市を含む居宅介護支援事業者・市内の介護サービス事業者
  - 第5回 近隣市を含む居宅介護支援事業者・市内の介護サービス事業者  
一般・キャラバンメイト・認知症サポーター

※ **参加者の声(感想等より一部抜粋)**

**第1回**

(どのような研修を希望するかについて質問したもの)

- ・認知症の研修を希望。
- ・何か一つテーマを決めて研修していただきたい。

**第2回**

- ・認知症の程度について事業所を変えたりするのはその人にとってどうなのかを考えた。個性に合わせたケアが大切であると思った。
- ・現状を意見交換でき、共感できる良い機会だった。

**第3回**

- ・笑顔で利用者に接し、自分たちは味方だという心をいつも持っていたい。
- ・不穏時の対応の仕方について勉強になった。認知症の方と一緒に共有し、行動する。無理強いせず、笑顔で寄り添うことが大切だと思った。
- ・認知症の方への対応は家族とのより深い相互協力、医師との相互協力が不可欠であると

思った。

### 第5回

- ・認知症は他人事ではなく、自分の通る道として考える必要があると認識させられた。
- ・人間らしくありのままに生きていけたらと思った。
- ・命が生き延びることだけでなく、命の質、死に方を本人の為に考えていきたいと思った。

### 平成22年度

回数	月 日	内 容	参加者数
第1回	5月13日	事業説明(高齢者福祉サービス・介護保険に関する連絡、認知症地域支援体制構築モデル事業)	37名
第2回	7月22日	講話「認知症の介護現場からの考察」 (講師:袖ヶ浦菜の花苑 剣持啓太氏)	79名
第3回	11月11日	講 話「認知症ケースへのケア」 (講師:NPO法人井戸端介護 伊藤英樹氏)	59名
第4回	平成23年 2月10日	講演会「認知症治療と地域支援体制について」 (講師:袖ヶ浦さつき台病院 細井 尚人医師)	136名

- ※対象者 第1回 近隣市を含む居宅介護支援事業者のみ  
第2・3回 近隣市を含む居宅介護支援事業者・市内の介護サービス事業者  
第4回 近隣市を含む居宅介護支援事業者・市内の介護サービス事業者  
一般・キャラバンメイト・認知症サポーター

### ※ 参加者の声(感想より一部抜粋)

#### 第1回

- ・認知症関連の研修を、できれば市外事業所にも参加させていただければありがたい。
- ・今後、介護予防のケアプラン等の作成についての研修を希望。
- ・ケアマネジメント時のアセスメントについての研修を希望。

#### 第2回

- ・認知症の方を受入れる現場が必要としていることや認知症の方と向き合う時に大事な事を学べた。ここでの学びを活かし業務にあたりたい。
- ・本人が認知症になっても宝物の価値は変わらないという言葉がすごく心に残り、いつも認知症の人に携わっているが軽い言葉で対応するのはやめようと思った。
- ・自分達を守ることを考えてしまい、相手のため



と考える視点を忘れていたことがあったことを再認識させてもらった。

### 第3回

- ・人との繋がりはケアされるだけでなく一緒に時を過ごす仲間として関われば良いと感じた。
- ・「認知症」の知識は増えていくものの、その人自体を見るという事から離れていたことを思った。知識や紙面上のマニュアルを学ぶ事だけではなく、本当の意味で理解し、その人にとって、一番良い事を考え、一緒に進んで行く事なのではないか？と思い、読んだ知識のみに頼りがちだが、見方を変える事の大切さを学んだ。
- ・認知症の研修では、予防するためには症状に対する対応は、というのが多いのですが今回は年だものしょうがないとシンプルに思うとの事。認知症(老い)は、社会の希望、老いに向き合っ何かが変わる。という考え方が新鮮でした。制度に負けず、若さと情熱でこのような考えと実践を広めていってほしいと思います。

### 第4回

- ・誰でもなる病気というのが理解でき、また、死をどのようにして迎えたいか考えることの大切さがわかりました。とても良い講義でした。
- ・最期について常々考えるが結論は出ずにいる。必ずやってくる逃げる事のできない大切な事。
- ・認知症は誰でもかかる病気であるから、かかっても安心して過ごせる街づくりをという考えには共感できます。社会の人が認知症の症状を理解し、皆で支えあう社会になればと思います。認知症を病気ととらえず、老いの一症状と考えるべきなのだと思います。



## (4) 認知症に関するセミナー等への参加

### ① 都道府県・モデル地域合同セミナー ……平成21(新規)・22年度(継続)

#### (目的)

全国各地域におけるモデル事業の実態を学ぶとともに意見交換し、当市におけるモデル事業の展開に活かす。

### 平成21年度

回数	年 月 日(日 数)	会 場	参加者数
1	平成21年7月 2 ~ 3日(2日間)	認知症介護研究研修東京センター	1名
2	9月17~18日(2日間)	同上	1名
3	平成22年1月28~29日(2日間)	同上	4名

**平成22年度**

回数	年 月 日(日 数)	会 場	参加者数
1	平成22年7月29～30日(2日間)	認知症介護研究研修東京センター	3名
2	10月18～19日(2日間)	同上	3名
3	平成23年1月27～28日(2日間)	同上	3名

**② 地域包括支援センター職員を対象とした住民連携と認知症介護予防サービス企画支援研修会**…………… **平成21年度(新規)****(目的)**

地域住民や既存の各種団体等とのネットワークづくりにより認知症・介護予防サービスを効果的に展開するため、地域づくりとネットワーク構築について、実践事例を通して学ぶ。

年月日	会 場	参加者数
平成22年1月14日	八重洲ビジネスセンター	1名

**③ 千葉認知症研究会**…………… **平成21(継続)・22年度(継続)****(目的)**

認知症の人の医療上・生活上の諸問題について、精神科病院の医師・看護師、高次脳機能障害の専門医、家族介護者等からの提言を受け、認知症についての理解の深化と適切な支援体制の構築につなげる。

**平成21年度**

月 日	会 場	参加者数
6月27日	幕張メッセ	6名

**平成22年度**

月 日	会 場	参加者数
6月19日	ホテルスプリングス幕張	6名

**④ 南総認知症研究会 市民フォーラム**…………… **平成21年度(新規)****(目的)**

認知症の医療・介護現場の専門家と、行政担当者、介護にあたる家族から、認知症の医療・介護の現状と課題について学ぶ。

月 日	会 場	参加者数
9月12日	木更津市民会館	5名



⑤ 認知症メモリーウォーク.....平成21(新規)・22年度(継続)

(目的)

「認知症でも安心な千葉に！」をテーマに、認知症の理解と社会への啓発を行う。

平成21年度

月 日	会 場	参加者数
10月4日	青葉の森公園	2名

平成22年度

月 日	会 場	参加者数
11月21日	稲毛海浜公園	3名

4 地域での見守りを構築するための事業

(1)キャラバンメイトの養成講座の開催

(目的)

「認知症サポーター」を養成するための「認知症サポーター養成講座」の講師役として、新規のキャラバンメイトを養成する。

平成21年度...①県主催(継続)

回	年 月 日	参加者数
1	平成21年8月13日	5名
2	平成22年1月29日	1名

平成22年度...①県主催(継続)

回	年 月 日	参加者数
1	平成22年8月6日	3名
2	平成22年1月29日	1名

平成22年度...②市主催(新規)

回	年 月 日	参加者数
1	平成22年9月3日	30名

※ 年度毎キャラバン・メイト養成者数

年 度	18	19	20	21	22年度 (23年2月末現在)	合 計
養成人数	5	6	4	6	33	54

**(2)キャラバン・メイトの活動支援**

**(目的)**

キャラバン・メイトが「認知症サポーター養成講座」を開催しやすいように講座のPRをしたり、講座を平準化するためのマニュアル作成、並びにキャラバン・メイトの連絡会やフォローアップ研修を開催しスキルアップを図り活動を支援する。

**①認知症サポーター養成講座開催時のマニュアルの作成……………平成22年度(新規)**

※ 講座の内容を平準化するためにマニュアルを作成したもの

**②「キャラバン・メイト連絡会」の開催……………平成22年度(新規)**

月 日	対 象 者	内 容	参加者数
7月16日	ボランティアセンター所属のキャラバン・メイト	・認知症地域支援体制構築モデル事業について ・認知症サポーター養成講座開催時の手続きとマニュアルの説明について	7名

**③「キャラバン・メイト フォローアップ研修」の開催……………平成22年度(新規)**

月 日	内 容	参加者数
23年 2月8日	・袖ヶ浦市認知症地域支援体制構築モデル事業について ・キャラバン・メイトによる認知症サポーター養成講座(デモンストラーション)・キャラバン・メイトの活動方法について	15名

**(3)認知症サポーターの養成講座**

**(目的)**

認知症になっても安心して地域で暮らせる地域づくりを推進するために、認知症について正しい知識を持ち認知症の人や家族を応援し、誰もが暮らしやすい地域をつくっていくボランティアとして「認知症サポーター」を積極的に養成する。

**①成人(自治会・シニアクラブ・サークル等)……………平成21(継続)・22年度(継続)**

年 度	21	22
回 数	9回	14回
参加者数	251名	315名

**②小学校高学年(教育委員会・小学校(7校)との連携)……………平成22年度(新規)**

対象者	回数	参加者数	備考
5年生	13回	404名	4校
6年生	8回	303名	5校
教職員・保護者		74名	1校は授業参観で実施
合 計		781名	

**※ 小学生認知症サポーターの声(感想より一部抜粋)**

- ・認知症は脳の病気だということがわかりました。自分の事も周りのこともわからなくて不安だと思います。周りの人がやさしく接して、何度も答えてあげるといこともわかりました。最後に言っていた「病気になっても心は生きている」というのは大切だと思います。(5年生)
- ・認知症は、ものをわすれたりわからなくなったりするので、やさしく接しようと思います。心は同じなので気をつけます。このことを家族に話しみんなでやさしくしようと思います。(6年生)
- ・認知症は、だれでもなりうる病気なので、認知症という病気を知れて良かったです。
- ・認知症のことをよく学びました。昔のよびかたや、どのように接したらいいのかなどのポイントを学びました。袖ヶ浦市に何人の人が住んでいるのか、その中で何人の人がお年寄りなのか、またその中でも認知症の人が何人いるのかなどの事もおしえていただきました。(6年生)
- ・みんなが年をとるので、誰がなってもおかしくない病気です。自分の家族が認知症になることもある。そのときは、やさしくします。(5年生)

**※ 年度毎「認知症サポーター養成講座」開催回数及び養成人数**

年 度	19	20	21	22	合 計
回 数	2	2	9	35	48
参加者数	106	57	251	1,096	1,510

**③「認知症サポーターの家」のステッカーの作成・配布……………平成22年度(新規)**

**(目的)**

認知症サポーター養成講座を受講し認知症サポーターとなった市民に、オレンジリングと共に「認知症サポーターの家」のステッカーを配布し、自宅入り口や店頭等に掲示していただくことで、認知症サポーターとしての自覚を高めると同時に、地域に対し認知症サポーターの存在を知らせることにより、見守りや支援を必要とする地域の認知症高齢者とその家族の安心につなげる。

また、一般市民に向けての認知症支援の啓発の一助とする。



**④地域資源マップの作成……………平成22年度(新規)**

**(目的)**

市内の医療機関や介護施設、行政機関等を一覧できる地図を作成することにより、その情報を広く市民に提供し、認知症の地域支援体制についての啓発を行うと共に、必要な時に必要なサービスに迅速につなげるために有効に活用していただく。

### 市内の薬局

薬局名	住所	電話番号
1 志保薬局	横田 3088	02-5876
2 アカ薬局	横田 1504	02-4960
3 アカ薬局	長瀬 15-4	02-5989
4 しろ薬局	長瀬 25-13	02-4181
5 西川薬局	横田 17-1	02-4962
6 西川薬局	長瀬 25-12	02-5907
7 ワン薬局	長瀬 15-95	02-4830
8 三ツ井薬局	長瀬 45-2	02-4847
9 長瀬駅前薬局	長瀬 25-1	02-5903
10 長瀬駅前薬局	長瀬 15-10	02-4835
11 長瀬駅前薬局	長瀬 15-11	02-4835
12 長瀬駅前薬局	長瀬 15-12	02-4835
13 長瀬駅前薬局	長瀬 15-13	02-4835
14 長瀬駅前薬局	長瀬 15-14	02-4835
15 長瀬駅前薬局	長瀬 15-15	02-4835
16 長瀬駅前薬局	長瀬 15-16	02-4835
17 長瀬駅前薬局	長瀬 15-17	02-4835
18 長瀬駅前薬局	長瀬 15-18	02-4835
19 長瀬駅前薬局	長瀬 15-19	02-4835
20 長瀬駅前薬局	長瀬 15-20	02-4835

### 市内の医療機関(内科)

医療機関名	住所	電話番号
1 石井内科クリニック	長瀬 44-12	02-7309
2 内科クリニック	横田 2029	78-2010
3 内科クリニック	長瀬 20-95	02-4181
4 内科クリニック	横田 41-1	02-4111
5 内科クリニック	長瀬 15-11	02-4111
6 内科クリニック	長瀬 15-12	02-4111
7 内科クリニック	長瀬 15-13	02-4111
8 内科クリニック	長瀬 15-14	02-4111
9 内科クリニック	長瀬 15-15	02-4111
10 内科クリニック	長瀬 15-16	02-4111
11 内科クリニック	長瀬 15-17	02-4111
12 内科クリニック	長瀬 15-18	02-4111
13 内科クリニック	長瀬 15-19	02-4111
14 内科クリニック	長瀬 15-20	02-4111

### 市内の医療機関(歯科)

医療機関名	住所	電話番号
1 石井歯科クリニック	長瀬 44-12	02-7309
2 内科クリニック	横田 2029	78-2010
3 内科クリニック	長瀬 20-95	02-4181
4 内科クリニック	横田 41-1	02-4111
5 内科クリニック	長瀬 15-11	02-4111
6 内科クリニック	長瀬 15-12	02-4111
7 内科クリニック	長瀬 15-13	02-4111
8 内科クリニック	長瀬 15-14	02-4111
9 内科クリニック	長瀬 15-15	02-4111
10 内科クリニック	長瀬 15-16	02-4111
11 内科クリニック	長瀬 15-17	02-4111
12 内科クリニック	長瀬 15-18	02-4111
13 内科クリニック	長瀬 15-19	02-4111
14 内科クリニック	長瀬 15-20	02-4111

### 市内の医療機関(歯科)

医療機関名	住所	電話番号
1 石井歯科クリニック	長瀬 44-12	02-7309
2 内科クリニック	横田 2029	78-2010
3 内科クリニック	長瀬 20-95	02-4181
4 内科クリニック	横田 41-1	02-4111
5 内科クリニック	長瀬 15-11	02-4111
6 内科クリニック	長瀬 15-12	02-4111
7 内科クリニック	長瀬 15-13	02-4111
8 内科クリニック	長瀬 15-14	02-4111
9 内科クリニック	長瀬 15-15	02-4111
10 内科クリニック	長瀬 15-16	02-4111
11 内科クリニック	長瀬 15-17	02-4111
12 内科クリニック	長瀬 15-18	02-4111
13 内科クリニック	長瀬 15-19	02-4111
14 内科クリニック	長瀬 15-20	02-4111



### 市内の医療機関(歯科)

医療機関名	住所	電話番号
1 石井歯科クリニック	長瀬 44-12	02-7309
2 内科クリニック	横田 2029	78-2010
3 内科クリニック	長瀬 20-95	02-4181
4 内科クリニック	横田 41-1	02-4111
5 内科クリニック	長瀬 15-11	02-4111
6 内科クリニック	長瀬 15-12	02-4111
7 内科クリニック	長瀬 15-13	02-4111
8 内科クリニック	長瀬 15-14	02-4111
9 内科クリニック	長瀬 15-15	02-4111
10 内科クリニック	長瀬 15-16	02-4111
11 内科クリニック	長瀬 15-17	02-4111
12 内科クリニック	長瀬 15-18	02-4111
13 内科クリニック	長瀬 15-19	02-4111
14 内科クリニック	長瀬 15-20	02-4111

### 市内の医療機関(内科)

医療機関名	住所	電話番号
1 石井内科クリニック	長瀬 44-12	02-7309
2 内科クリニック	横田 2029	78-2010
3 内科クリニック	長瀬 20-95	02-4181
4 内科クリニック	横田 41-1	02-4111
5 内科クリニック	長瀬 15-11	02-4111
6 内科クリニック	長瀬 15-12	02-4111
7 内科クリニック	長瀬 15-13	02-4111
8 内科クリニック	長瀬 15-14	02-4111
9 内科クリニック	長瀬 15-15	02-4111
10 内科クリニック	長瀬 15-16	02-4111
11 内科クリニック	長瀬 15-17	02-4111
12 内科クリニック	長瀬 15-18	02-4111
13 内科クリニック	長瀬 15-19	02-4111
14 内科クリニック	長瀬 15-20	02-4111



袖ケ浦市

### 市内の介護保険所施設

施設名	住所	電話番号
1 介護保険所	長瀬 44-12	02-7309
2 介護保険所	横田 2029	78-2010
3 介護保険所	長瀬 20-95	02-4181
4 介護保険所	横田 41-1	02-4111
5 介護保険所	長瀬 15-11	02-4111
6 介護保険所	長瀬 15-12	02-4111
7 介護保険所	長瀬 15-13	02-4111
8 介護保険所	長瀬 15-14	02-4111
9 介護保険所	長瀬 15-15	02-4111
10 介護保険所	長瀬 15-16	02-4111
11 介護保険所	長瀬 15-17	02-4111
12 介護保険所	長瀬 15-18	02-4111
13 介護保険所	長瀬 15-19	02-4111
14 介護保険所	長瀬 15-20	02-4111

## 認知症になってもいつまでも自分らしく 住み慣れた地域で暮らすために in 袖ケ浦

### 認知症とは・・・

認知症は、だれにも起こりうる脳の病気です。高齢の方によくみられますが、若年者にもなる場合があります。早いとこ気づかれ、適切なケアを受けることで、認知症が進行からならなくなり、それまで当たり前に生きていたことができなくなり、判断力、理解力、思考力が低下していきたりします。また不安やうつ状態、怒り、憂鬱、徘徊、暴力などが起こることもあります。

### こんなことはありませんか？

- いつもぼんやりしている
- よく間違っている人や物名が出てこない
- 「家がなくなった」と本人が訴える
- 身元をまわがなくなっている
- 好きだったものに興味を示さない
- 怒りっぽくなり、周りにへこみを感じたり、いらいらしている
- 今までの生活リズムや習慣が崩れる
- 判断できなくなったり、簡単な計算が難しくなる
- 睡眠が不規則になり、慣れた道で迷ったりする

このような症状は認知症の兆候である場合があります。病院や介護施設についての情報は、地域包括支援センターへお問い合わせください。

### 医療機関・薬局

認知症の診断や治療、認知症の予防、また認知症のケアや介護について、医師や薬剤師、看護師がサポートします。

### 介護保険によるサービス

認知症が認められれば、介護保険を利用して地域のサービスを利用できます。

### 介護保険外のサービス

生活を支える様々なサービスがあります。

### 地域の見守り

認知症サポーターの方や、警察や消防機関、商店など地域で暮らす認知症の方々の安全を守るサービスがあります。

### 地域包括支援センター

高齢者が地域で安心して暮らしていくために必要な様々なサービスを行います。

### 市内の介護保険サービス事業所等

(平成22年9月1日現在・60歳未満)

事業所名	住所	電話番号
1 志保介護支援センター	長瀬 44-12	02-7309
2 志保介護支援センター	横田 2029	78-2010
3 志保介護支援センター	長瀬 20-95	02-4181
4 志保介護支援センター	横田 41-1	02-4111
5 志保介護支援センター	長瀬 15-11	02-4111
6 志保介護支援センター	長瀬 15-12	02-4111
7 志保介護支援センター	長瀬 15-13	02-4111
8 志保介護支援センター	長瀬 15-14	02-4111
9 志保介護支援センター	長瀬 15-15	02-4111
10 志保介護支援センター	長瀬 15-16	02-4111
11 志保介護支援センター	長瀬 15-17	02-4111
12 志保介護支援センター	長瀬 15-18	02-4111
13 志保介護支援センター	長瀬 15-19	02-4111
14 志保介護支援センター	長瀬 15-20	02-4111

### 在宅介護支援事業所(ケアマネジャー)

事業所名	住所	電話番号
1 ケアマネージャー	長瀬 44-12	02-7309
2 ケアマネージャー	横田 2029	78-2010
3 ケアマネージャー	長瀬 20-95	02-4181
4 ケアマネージャー	横田 41-1	02-4111
5 ケアマネージャー	長瀬 15-11	02-4111
6 ケアマネージャー	長瀬 15-12	02-4111
7 ケアマネージャー	長瀬 15-13	02-4111
8 ケアマネージャー	長瀬 15-14	02-4111
9 ケアマネージャー	長瀬 15-15	02-4111
10 ケアマネージャー	長瀬 15-16	02-4111
11 ケアマネージャー	長瀬 15-17	02-4111
12 ケアマネージャー	長瀬 15-18	02-4111
13 ケアマネージャー	長瀬 15-19	02-4111
14 ケアマネージャー	長瀬 15-20	02-4111

### 訪問リハビリテーション

事業所名	住所	電話番号
1 訪問リハビリ	長瀬 44-12	02-7309
2 訪問リハビリ	横田 2029	78-2010
3 訪問リハビリ	長瀬 20-95	02-4181
4 訪問リハビリ	横田 41-1	02-4111
5 訪問リハビリ	長瀬 15-11	02-4111
6 訪問リハビリ	長瀬 15-12	02-4111
7 訪問リハビリ	長瀬 15-13	02-4111
8 訪問リハビリ	長瀬 15-14	02-4111
9 訪問リハビリ	長瀬 15-15	02-4111
10 訪問リハビリ	長瀬 15-16	02-4111
11 訪問リハビリ	長瀬 15-17	02-4111
12 訪問リハビリ	長瀬 15-18	02-4111
13 訪問リハビリ	長瀬 15-19	02-4111
14 訪問リハビリ	長瀬 15-20	02-4111

### 認知症サポーター養成講座

認知症サポーターとは、認知症の方の困りごとを察知し、適切な支援を行う役割を担います。認知症サポーター養成講座では、認知症の基礎知識や、認知症の方への対応方法、認知症サポーターとしての役割などを学びます。認知症サポーターとして活躍したい方は、ぜひ参加してください。

### 認知症家族のついで

認知症の方を介護するご家族は、身体的にも精神的にも大きな負担がかかります。認知症家族のついでには、認知症家族のついで支援センターがサポートします。認知症家族のついで支援センターでは、認知症家族のついで支援センターの役割や、認知症家族のついで支援センターの役割などを学びます。認知症家族のついで支援センターとして活躍したい方は、ぜひ参加してください。

### その他の相談窓口

- 認知症相談センター
- 認知症家族のついで支援センター
- 認知症サポーター養成講座
- 認知症家族のついで支援センター
- 認知症サポーター養成講座

### 訪問介護(ホームヘルプサービス)

事業所名	住所	電話番号
1 訪問介護	長瀬 44-12	02-7309
2 訪問介護	横田 2029	78-2010
3 訪問介護	長瀬 20-95	02-4181
4 訪問介護	横田 41-1	02-4111
5 訪問介護	長瀬 15-11	02-4111
6 訪問介護	長瀬 15-12	02-4111
7 訪問介護	長瀬 15-13	02-4111
8 訪問介護	長瀬 15-14	02-4111
9 訪問介護	長瀬 15-15	02-4111
10 訪問介護	長瀬 15-16	02-4111
11 訪問介護	長瀬 15-17	02-4111
12 訪問介護	長瀬 15-18	02-4111
13 訪問介護	長瀬 15-19	02-4111
14 訪問介護	長瀬 15-20	02-4111

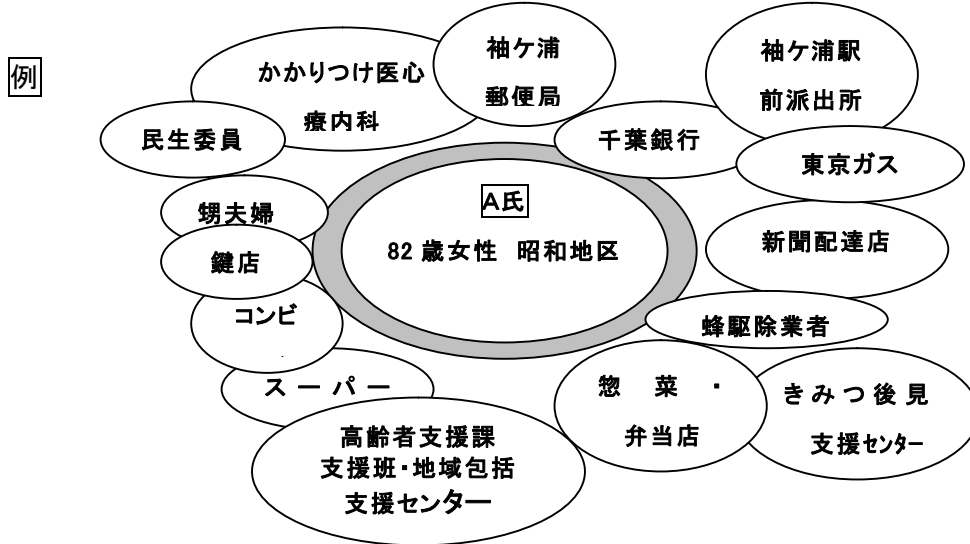
### 通所介護(デイサービス)

事業所名	住所	電話番号
1 通所介護	長瀬 44-12	02-7309
2 通所介護	横田 2029	78-2010
3 通所介護	長瀬 20-95	02-4181
4 通所介護	横田 41-1	02-4111
5 通所介護	長瀬 15-11	02-4111
6 通所介護	長瀬 15-12	02-4111
7 通所介護	長瀬 15-13	02-4111
8 通所介護	長瀬 15-14	02-4111
9 通所介護	長瀬 15-15	02-4111
10 通所介護	長瀬 15-16	02-4111
11 通所介護	長瀬 15-17	02-4111
12 通所介護	長瀬 15-18	02-4111
13 通所介護	長瀬 15-19	02-4111
14 通所介護	長瀬 15-20	02-4111

(4) 地域での見守り(見守り隊).....平成21(新規)・22年度(継続)

(目的)

認知症で単身生活をしているなど身近な人たちによる日常的な見守りがとくに求められるケースにおいて、孤立しないようにケース毎に関係者により見守りを行うネットワークをつくり、住み慣れた地域における生活の継続を支援する。



5 医療連携.....平成22年度(新規)

(目的)

認知症の人やその家族を地域で支える為に、認知症に対する正しい理解を普及すると共に、関係機関との連携や地域での見守り等の構築を図る。

(1) かかりつけ医(君津木更津医師会二部会)との打合せ会議

月 日	主 な 議 題	参加者数
10月12日	(1) 千葉県認知症地域支援体制構築モデル事業および「医療・介護・福祉と地域が連携した予防ならびに早期から終末期までの認知症高齢者の支援体制(案)」について (2) 認知症治療に伴うかかりつけ医と専門医療機関との連携について	会員9名 細井医師

(2) 君津木更津歯科医師会袖ヶ浦支部・君津木更津薬剤師会袖ヶ浦支部との打ち合わせ会議.....平成22年度(新規)

月 日	主な議題	参加者数
23年 10月12日	(1) 袖ヶ浦市認知症地域支援体制構築モデル事業について (2) 認知症治療と地域支援体制	・君津木更津歯科医師会袖ヶ浦支部会員5名 ・君津木更津薬剤師会袖ヶ浦支部会員9名 ・細井医師

(3) 症例検討会 ..... **平成22年度(新規)**

月 日	参 加 予 定
23年 3月14日(予定)	・君津木更津医師会二部会会員 ・細井医師

6 市民に認知症に関する知識の普及を図るための事業

(1) 認知症予防に関する講演会 ..... **平成22年度(新規)**

(目的)

認知症に関する正しい知識と予防の普及啓発を図るとともに、地域での自主活動につながるきっかけとする。



月 日	テーマ	参加者	参加者数
10月16日	「今日からできる認知症予防」  講師 東京都健康長寿医療センター 宇良 千秋氏	一般市民、シニアクラブ連合会、民生児童委員、居宅介護支援事業者、居宅介護サービス事業者、地域包括支援センターブランチ、認知症サポーター、キャラバンメイト等	133名

**※ 参加者の声(感想より一部抜粋)**

・わかりやすい話で、聞きいてしまいました。人のおつきあいや外に目を向け、外出したり、足を鍛えたりとがんばらずに出来ることを、楽しく続けていこうと思いました。健康で長生きしたいと思います。

・年齢的に認知症が目前に、という感覚で日常生活を送っているが、予防についての話を聞き少々安心。とはいえ、自分の生活態度を振り返って、日常生活にもっと内容を取り入れて、今後は生活したい。

・日常生活の中で無理なくできるようなお話を伺えてよかった。続けることの大切さを教わった。

## (2)南総認知症研究会 袖ヶ浦認知症市民フォーラム

### (目的)

認知症が抱える諸問題について意見交換し、市民の方々や医療福祉関係者の悩みの共有・軽減につなげる。

月 日	テーマ	パネリスト	参加者数
11月20日	「認知症と共に生きる」	・袖ヶ浦さつき台病院 細井 尚人氏 ・さつき台訪問看護ステーション 相原 鶴代氏 ・袖ヶ浦菜の花苑居宅介護支援事業所 宗政 亜矢子氏	43名

### ※ 参加者の声(感想より一部抜粋)

- ・介護する家族にとって、認知症をもっと勉強し、患者の言動を理解できれば、もっと日常生活でやさしく対応できるであろうし、人生を終えるまでの時を十分にフォローしてあげられると思う。今回の企画も継続していただけると心の支えになる。
- ・地域で見守っていくために、このような話を聞ける機会が多いことを望む。子どもたちの認知症サポーター講座が広がれば、その親や近所の方にも広がり安心した袖ヶ浦になっていくと思う。
- ・素晴らしい進め方の話で勉強になりました。もっとたくさんの方が聞かれたらよいのと思った。認知症には縁のない若い世代にもぜひ来てもらいたい。今後世話をする立場になるかもしれないので。細井先生の専門的な説明も大変勉強になった。
- ・細井先生の認知症の話が良かった。認知症は治らない。一人では解決できないものであると認識しました。自分自身、力を貸せる人間になりたい。またこのような場を設けていただきたい。
- ・さまざまな視点からの話を聞くことができ、とてもよい機会となりました。診察から終末期までの現場での事例を含め、話していただけて参考になった。

## Ⅷ 評価

モデル事業の実施にあたっては、事前に当市が実施している認知症関係の事業を洗い出し、モデル事業の中で実施する事業を検討しスケジュールを組んだ。

さらに、モデル事業を進めていく中で、随時コーディネーターのご意見を頂いたり、プロジェクトチームの打ち合わせ会議や検討委員会で協議していただいたことで、事業の方向性から詳細までの検討を行うことができた。

認知症対策への取り組みを検討しモデル事業を支援するため開催した「認知症地域支援体制構築モデル事業検討委員会」は、モデル事業が平成22年度をもって終了するとともに委員会も廃止となるが、この事業を一過性で終わらせず継続していくためには、今後は介護保険運営協議会で認知症地域支援体制構築のための検討事項等を協議していくことが望まれる。

平成12年度の介護保険制度の施行より実施してきた「居宅介護支援事業者連絡会」の対象

者については、平成21年度より介護支援専門員だけでなく、市内介護サービス事業者にも拡大し関係職員の質の向上を図ると共に、一部、一般市民も対象とした講演会を開催したことで、多方面への啓発活動ができたと思われる。次年度からは「介護サービス事業者連絡会」として名称も変更し、対象者も市内の事業者のみならず近隣市の事業者も含めて参加を呼びかけ、さらなる資質の向上を図っていきたい。

また、居宅介護支援事業者、介護サービス事業者等、現場で直接関わりを持つ職員を対象にした「認知症の人のためのケアマネジメント センター方式研修会」、並びにそのフォローアップ研修として「より良いケアをするために(第Ⅰ弾)」を開催したことにより、介護現場における関わり方について、従来と異なる視点で深めることができた。平成22年度も更に「フォローアップ研修(第Ⅱ弾)」を重ねたことで、認知症ケアに関わる専門職のスキルアップを図ることができたと思われる。

さらに、ある介護サービス事業者においては認知症をテーマにした住民向けの講習会を開催したりと、地域に向けての啓発、普及が図れている。

認知症サポーター養成講座については、民生児童委員、シニアクラブ、自治会、サークル等に対し、随時、養成を行なってきた。平成22年度後半では、袖ヶ浦レクリエーション協会の方とお会いする機会があり、同協会でもレクリエーションを通じた認知症予防を含む介護予防に取り組んでいるという情報を得た。以後、レクリエーション協会との連携により、第一部で認知症サポーター養成講座、第二部でレクリエーションを通じた認知症予防を含む介護予防の講座の二本立てで取り組みはじめたところ、参加者からは大変好評を得ている。今後も認知症予防に限らず全般的な介護予防を目指してレクリエーション協会と連携し、シニアクラブ、自治会、サークル等、さらに多くの方に参加していただくように周知していきたい。

さらに、平成22年度からは教育委員会や各小学校の協力を得て、高学年の児童に対し認知症サポーター養成講座を開催した。アンケートの結果からも、認知症についての正しい理解や適切な対応について学びを深め、その家族や隣人・知人等にも普及することができていると思われる。

また、小学生に対しての認知症サポーター養成については、次年度は学校のカリキュラムの中で定例化してくださるという声もいただいた。そして、今年度受講した5年生に来年度も養成講座開催の依頼をいただいたことから、「フォローアップ研修」の開催に向けて準備をしている。

さらに、中学年に対しても既存の人権教室等と連動して実施していけるのではないかとのお好感触な学校もあり調整をしていく予定である。ある小学校については、「当小学校区から、認知症についてのモデル地区としての取り組みを発信していきたい」と言ってくれる校長先生もあり、さらに力を入れて継続して実施していきたい。

キャラバン・メイトの養成は、従来、県主催の講座を受講していたが、平成22年度に初めて市主催で開催をした。講義内容のひとつであるグループワークでは、市内の者同士、あるいは近隣やサークルなどで気心の知れた者同志が集まったことで、より具体的に養成講座や支援方法についての検討がなされた。また、受講生がサポーター養成講座の開催に向けて積極的にPRをしてくださり、開催回数の増加につながった。

あるグループホームでは、「施設から認知症についての知識の普及等、どんどん発信していきたい



い」との積極的な発言もいただいていたが、平成23年3月開催の県主催のキャラバン・メイトの養成講座には2名の受講生を出していただき確実に前進している。

キャラバン・メイトは従来1人で講座を担当していたが、1人で実施することの不安等により、メインでのデビューにつながりにくかった。そのため、平成22年度よりメイン1人とサブ数人のチームで開催する形をとり、他のメイトの講話を聞くことで不安が軽減され、メインとしてのデビューにつながるなどの効果も現れるようになった。

また、キャラバン・メイトの養成講座受講生が勤務している企業の労働組合で、認知症サポーター養成講座を次年度の事業として検討していただくことになった。できればこの事業所から、他の事業所にも発信していただけるようにしたい。加えて、生活に身近な商店他、多くの企業等にも働きかけていきたい。

「認知症サポーターの家」のステッカー及び地域資源マップの作成に当たっては、プロジェクトチーム等で検討を重ねてきた。地域資源マップについては、市民がいつでも携帯し活用できるように、折りたたみ式にし、4月1日号の広報紙に折込で掲載する予定である。

平成22年度より開始した「認知症家族のつどい」では、家族が日頃の悩みや不安を打ち明ける場であったり、気分転換したい、具体的なアドバイスが欲しい、情報交換がしたい等、様々な目的で集まって共感したり、安心したり、時には涙したりと充実した時間となった。介護に追われる家族に、意識してこのような場を設けることが必要だと実感した。

また、窓口や訪問活動等、日頃の活動の中で、成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用についての調整を随時行っており、認知症の方や家族の方の法律面や生活面、経済面においての支援に結びつけることができた。

認知症の方が地域で生活するためには、医療との連携は不可欠である。医療との連携において、かかりつけ医の認知症に対する理解や専門医療機関との情報交換が必要であり、打ち合わせ会議の開催に加え、今後は症例検討会の実施も予定している。

さらに、歯科医師・薬剤師にも、認知症についての正しい理解と情報交換や、特に薬剤師は市内に点在し気軽に相談できると思われることから、見守り等の支援の協力も得ていく必要があると思われる。

また、コーディネーターである細井医師の認知症講演会等では、「物忘れから亡くなるまでの切れ目のないケアと医療の必要性について」の講演を受け、関係者のみならず住民への啓発の良い機会となった。

各種事業の取り組みを通して、認知症の方や家族を支えるための支援として関係職種のみならず、一般市民や各種地域組織の力が不可欠であることを実感した。また、様々な力や思いを持った住民との出会いの中で、共に集ってくれる強い味方がたくさんいることを実感した。

私達が実施してきた取り組みを広報紙やホームページ等可能な限り発信していきたい。これらの取り組みにより地域に少しでも変化を感じられたら、成果として評価していくことが大切であると思われる。私達が発信したり支援をすることで、住民や地域組織、関係者との共感を確かめていけると思う。行政に関係者及び住民といった多様な立場から関わりを持ってもらうことで、様々な視点での相互作用がより働くと思う。

それらが力を持ち、良きパートナーとして存在することができるし、また、それら住民同士の出会いが新たな力となると思われる。まさに1人の100歩より、100人の1歩であると考ええる。

また、このモデル事業を通して、各事業を実施すること自体が担当職員の学びの場となった。

今後も認知症対策を推進していく為に、自らが積極的に事業の運営に携わったり、各種研修会への参加など自己研鑽をし、さらなる学びを深めていきたい。

## IX 課題

認知症サポーター養成講座では、キッズサポーターとして小学校高学年への実施が実現したが、「地域全体で認知症を支える」という意味では、中・高校生についての開催も検討していく必要がある。

また、銀行や郵便局、商店など、多くの住民に接する、住民に対して身近な業種へのサポーター養成講座の受講をすすめていきたい。

また、キャラバンメイトが認知症サポーターの講師役としての自覚を持ち、積極的に講座を開催できる者であるとともに、講座の運営について更なるスキルアップが図れるように研修等継続的な支援が必要である。

認知症サポーター自身においても、認知症に関する知識を積み重ね、普及していく仲間として、今後もフォローアップ研修として認知症に関する講演会等の知識の習得の場が必要である。

認知症家族のつどいについては、当面は市が先導していく形をとるが、参加者の反応を見ながら、いずれは参加者による自主的活動に結び付けていきたい。22年度の最終回(4回目)開催の際、自主活動への移行についてもアンケート調査をしたところ、参加者のほぼ全員が自主活動への移行について賛成であったことから、運営方法等についてさらに検討し、自主的活動に結び付いたあかつきには、市は後方支援をしていきたい。

認知症に対しては特定の医師が関わるのではなく、かかりつけの医師等、地域での診療ができることが望まれる。今後も、市の枠を超え、管内医師会での認知症への対応技術の向上に対する勉強会や相談体制の整備など、専門医とかかりつけ医との連携は勿論のこと、かかりつけ医と歯科医師や薬剤師との連携、さらには、医療・介護・福祉、そして地域との連携の強化はますます必要な事項である。

認知症の人を「地域で支える」ためには、認知症の人を支える側の認知症に対する正しい知識の習得、認知症に対する関わり方の習得だけでなく、支える側が自立し、安心した生活を送ることができることが前提だと考える。そのため、認知症を予防する、ひいては要介護状態にならないための取り組みも推進していきたい。

加えて、誰もが同じく迎える死についても、終末期をどこでどのように迎えるか、といった予後について目を背けずに、丈夫なうちから家族等とも話し合っておく必要があることも発信していかなければならない。

## **X おわりに**

本モデル事業は平成 23 年 3 月末をもって終了するが、今後も「いつまでもいきいきと住み慣れた地域で暮らし続けることができる」まちづくりのために、認知症の方を支える方々とのつながりをしっかりと強化するとともに、住民それぞれの声に耳を傾け、共に考え、作り上げる過程を大切にしていきたい。

そして、関係職種は勿論のこと、子供から大人まで住民自身の力を地域資源として生かし、継続して活動できるように共に歩んでいきたい。